

高齢化社会とアート環境 シルバーパワーが社会を変える

分科会【A】特定非営利活動法人NPO芸術資源開発機構 (ARDA)

2007年3月3日(土) 分科会【A】 11:30~13:00

会場：トヨタ自動車東京本社ビル (東京都文京区後楽 1-4-18)

- 「高齢者施設へアート・デリバリー」 三ツ木 紀英 NPO ARDA / アートプロデューサー
- 「高齢者のミュージアム時間～高齢化社会対応型美術館の今と未来～」 稲庭 彩和子 神奈川県立近代美術館 学芸員
- 「ユニヴァーサルデザインが社会を変える」 川原 啓嗣 国際ユニヴァーサルデザイン協議会専務理事

<司会> 並河 恵美子 (NPO ARDA 代表)

2006年版高齢化白書によると日本の高齢化率は過去最高、2025年には30%と予測される。高齢化は日本だけの問題ではなく、世界の60歳以上の人口は2050年には20億を超えるといわれ、現在の若者の将来は世界的規模の高齢社会を生きることになる。バリアフリー。ユニヴァーサル・デザイン。年齢を超えて、すべての人々が生きやすいインクルーシブ・ソサエティ (包括的社会) へ。シルバーパワーを意識し活かすことに、アートもまた緊急に取り組むべき時が訪れている。

プログラム (10:00 開場)

- 第1部 オープニングセッション (10:30~11:15)
- 第2部 分科会 (公募企画含む3セッションを同時並行開催) (11:30~13:00 / 14:00~15:30)
- 第3部 総合セッション (16:00~18:00) クロージング (18:10~18:30) 交流会 (18:30~20:00)

◎ フォーラム全体プログラム、各分科会の内容等は公式サイトまたは総合チラシをご覧ください。

■ お申し込み方法

フォーラム公式サイト <http://www.nettam.jp/forum07/> の専用フォーム、または、FAX・郵送で受け付けます。

- 必要事項：氏名、郵便番号・住所、TEL・FAX・E-mail アドレス、ご職業 (所属・役職、学校名・専攻、無職)
- 参加分科会：A・B・Cから第1、2希望をひとつずつ/D・E・Fから第1、2希望をひとつずつ
- ◎ 本セッションは 分科会【A】<高齢化社会とアート環境>～シルバーパワーが社会を変える～(ARDA)
- 交流会参加の有・無を明記 (※別途交流会参加費 ¥1,000 が必要です)
 - ※ フォーラム参加費：¥1,000 (全体参加費として)
- 申込み締切：2月20日(火) (定員250名：応募多数の場合は抽選)

■ お申込み先 / 申込方法についてのお問合せ

ネットTAM運営会事務局 ([社] 企業メセナ協議会内) トヨタ・アートマネジメントフォーラム 2007 係
TEL: 03-3213-3397 FAX: 03-3215-6222 E-mail: kmk@mecenat.or.jp
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 第一鉄鋼ビル1階
*電話でのお申込みは受け付けておりませんので、ご了承ください。
*ご応募の際にお送りいただいた個人情報は、本件に関するご連絡および今後のご案内のためにのみ使用します。
事務局にて厳重に管理し第三者に提供することはありません。

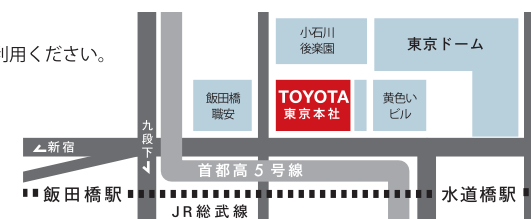
■ 本セッション 企画・運営についてのお問合せ

特定非営利活動法人 NPO 芸術資源開発機構 (ARDA) <http://www.arda.jp/>
TEL & FAX: 03-3334-7876 E-mail: infoarda@arda.jp
〒168-0082 東京都杉並区久我山 5-23-2

<アクセス方法>

- JR 総武線「水道橋」駅西口・「飯田橋」駅東口より徒歩5分
 - 地下鉄東西・南北・有楽町線「飯田橋」駅 A1 出口より徒歩5分
 - 大江戸線「飯田橋」駅 C2 出口より徒歩3分
- ※ 駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。

トヨタ自動車東京本社
東京都文京区後楽 1丁目 4-18



企画・運営：特定非営利活動法人NPO芸術資源開発機構

主催：トヨタ自動車株式会社 / 協力：社団法人企業メセナ協議会、SETENV / 運営：トヨタ・アートマネジメントフォーラム2007 実行委員会、ネットTAM運営事務局

分科会【A】＜高齢化社会とアート環境＞～シルバーパワーが社会を変える～ <11:30~13:00> 司会：並河 恵美子（NPO ARDA 代表）



「高齢者施設へアート・デリバリー」 ミツ木 紀英 NPO ARDA / アートプロデューサー

NPO ARDA は、現在ファイザー製薬、松下電器産業の支援を得て、継続的に杉並区の特別養護老人ホーム上井草園＋上井草ふれあいの家（ディサービス）と、立川市の至誠学舎立川至誠ホームオミ（グループホーム）＋至誠ディケアセンターへアーティストを派遣するアート・デリバリーを実施している。ダンス、絵画、作曲、インスタレーションなど、様々な表現の作家達が施設を訪れ、お年寄りや介護スタッフと共にワークショップを行う。その様子を映像で、施設の担当者へのインタビューなどを見ながら、高齢者施設の現場にアーティストが入っていったときに、どんなことが起こるのか、現状を報告する。



● 岩下徹のワークショップ「少しずつ自由になるために」特別養護老人ホーム上井草園にて

’70年生まれ。’92年実践女子大学文学部美学美術史学卒業。’97-8年渡英。帰国後、英国で日本人作家のレジデンシヤや展覧会コーディネートをしながら、狛江市の児童センターや民間の高齢者施設、その他人々の生活に近いところで、アートプロジェクトを展開。近年はパブリックアートの企画にもかかわり、ソフトとハードの両面から社会とアートの出会いの場を創造することを志している。’04年よりNPO法人芸術資源開発機構のアートデリバリー事業、プロジェクトコーディネーターに。他に、「神田そばあーと」プロデュース（’01年）、神奈川県立近代美術館葉山の「きょうのはやまにみみをすます」企画協力（’04年）、a piece of space APS オーガナイザー（’04年～）等。

「高齢者のミュージアム時間～高齢化社会対応型美術館の今と未来～」 稲庭 彩和子 神奈川県立近代美術館 学芸員

高齢化が進む国々で、高齢者の求めに対応しようとする美術館の試みが始まっている。イギリスやドイツなど諸外国の現況と、日本の美術館での様子を簡単に報告しながら、高齢者にとって魅力的な美術館の要素は何かを整理してみる。高齢化社会への対応を展開させていく上での現実的な難しさや課題を確認しつつ、また未来へ向けての可能性をも考えてみたい。芸術を抱える空間は、高齢化社会にアクティブに作用できるのだろうか。



● 「とびだせ！ニコルソン」異年齢参加のワークショップ

’72年横浜生まれ。青山学院大学修士課程にて日本美術史を専攻し、並行して東京国立博物館美術課学芸部絵画室に非常勤勤務。その後、神奈川県での研修助成を得て大英博物館に2年間在籍しつつロンドン大学（UCL）でミュージアム・コミュニケーションを研究し修士号取得。’03年より神奈川県立近代美術館に勤務。文部科学省委嘱事業文化体験プログラム「きょうのはやまにみみをすます」や、美術館キット「Museum Box 宝箱」などを企画担当。’06年度はアート系 NPO や地域の自治体など外部組織と連携した地域向けプログラムや『線の悦び・デッサンの魅惑』展を担当。著書に『博物館の学びをつくりだす』（共著、ぎょうせい、’06年）。

「ユニヴァーサルデザインが社会を変える」 川原 啓嗣 国際ユニヴァーサルデザイン協議会専務理事



高齢化率 20%を超え、かつて世界中のどの国も経験したことの無い超高齢社会へと突入しつつある日本において、高齢者や障害者を含む誰もが安心して暮せるように社会を構築していくためにはユニヴァーサルデザイン（UD）の考え方が不可欠と言われている。では、UD 社会を推進していく上で、産、官、学、そして民のそれぞれの立場において、一体何がポイントであり、どのように考えていけばよいのか等、お話したいと考えている。

● TOTO「レストパルDX」
手すりの代わりとして機能する壁付カウンターなど、高齢者の自尊心にも配慮したデザイン。

’76年九州芸術工科大学卒業。’77年同大学専攻科修了。’80年英国王立芸術大学院（Royal College of Art）修了。現在、株式会社キッド・ステューディオ代表取締役および国際ユニヴァーサルデザイン協議会専務理事。’06年より名古屋芸術大学大学院教授を兼任する。通商産業省グッドデザイン賞審査委員他各種公的審議会委員、異業種協業デザインネットワーク「東京クリエイティブ」商品開発コーディネーター等を歴任。国際デザインコンペティションなど受賞多数。産業機器、情報機器、住宅設備機器、医療福祉機器他多岐に渡る工業製品の企画開発に携わる。とりわけユニヴァーサルデザイン、サステナブルデザインなど社会的テーマに関わる商品開発コンサルティングを得意としている。

